

～男女共同参画社会の実現に向けて～

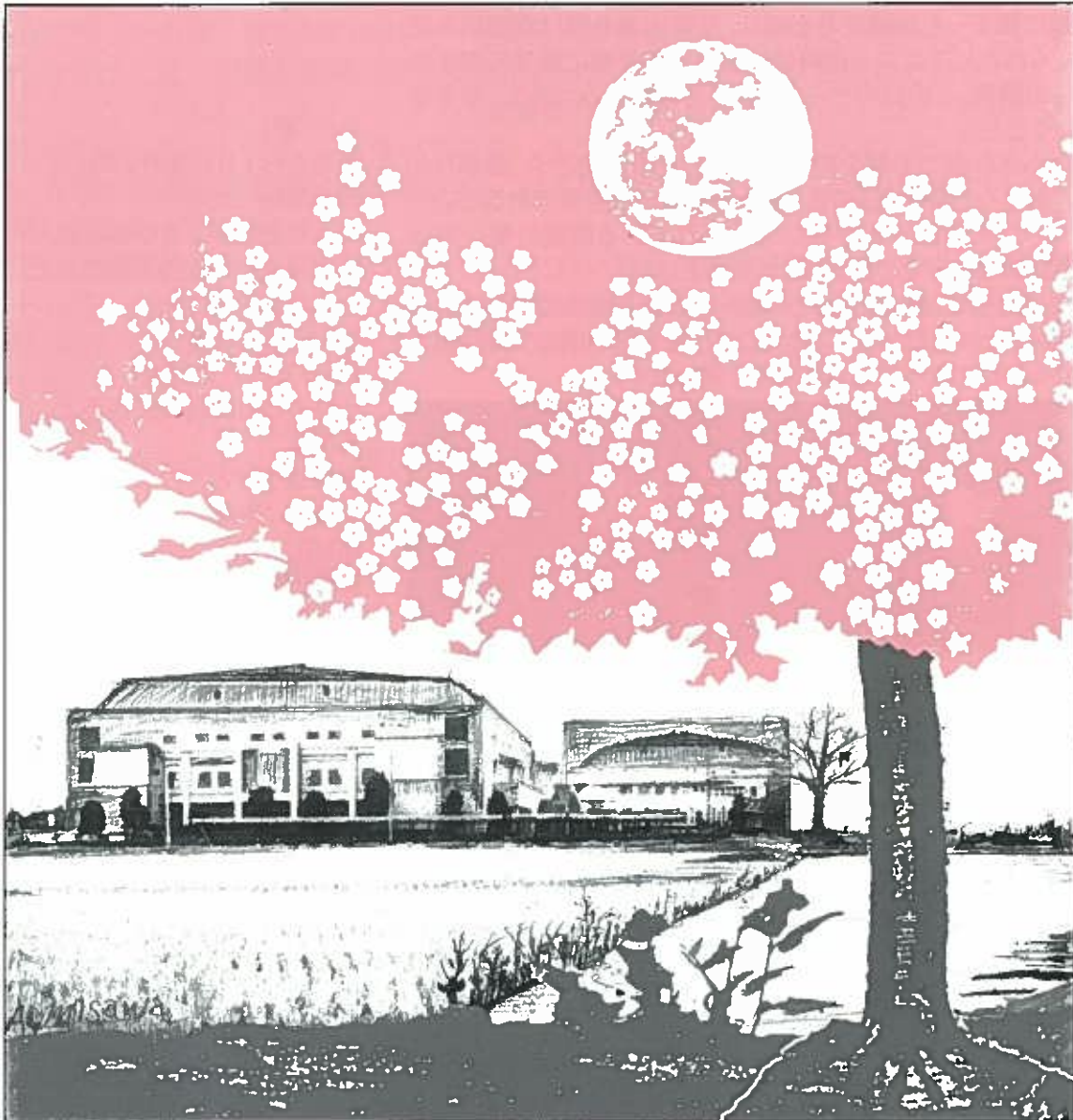


幸手市のマスコットキャラクター
さっちゃん

モア MORE

ひとひと
幸手市女と男の情報紙
第18号 2013

モア (MORE) とは、女と男がより豊かに、よりすばらしい
男女共同参画社会実現への願いを込めて命名しました。



絵・デザイン 三澤昭人 作

横関咲栄講演会	2
日本女性会議2012仙台	3
埼葛人権を考えるつどい	4
男女共同参画情報コーナー	5
ときめき感動の時	5
輝きコーナー我が家の場合	6

ひとひと 女と男の共生セミナー

「夢と現実をみつめて、 今を生きるということ」 横関咲栄さん母校で語る



平成24年度の女と男の共生セミナーは、10月12日(金)に幸手市立西中学校の協力を得て開催しました。

今回の講師は、西中学校の卒業生(平成10年3月)で現在、舞台を中心に活躍中の女優横関咲栄さん。

体育館に集まった後輩たちを前に、友情出演を受け雰囲気盛り上げてくれたピアニスト岩崎健一郎さんの伴奏に乗せて歌を交えながらの講演。この日のテーマは「夢と現実をみつめて、今を生きるということ」。

どんな小さな事でも夢を持ち続けることの大切さや、曲がりかどに突きあたった時に最終的に道を決めるのは自分であるということ。そして、人間誰でも平等に与えられている時間の使い方は、やはり自分次第……と、語りかけてくれました。

西中生にとって、自分たちの先輩が失敗談も含めて話してくれたことを、これから先つまずいた時、少しでも思い出して乗り越えられるきっかけになってもらえたらと思います。



横関さんは講演当日の夜、ブログに次のようなメッセージを書き込んでくれました。

～話しきれなかった事や

今日伝えたかった事のまとめ～

☆西中の君たちへ☆(一部抜粋)。

ただ「夢」って
諦めたら100%叶わない。
諦めなかったら
叶う可能性が100%ある。
先が見えないから不安だけど
いろんなこと
「やらない」より
「やってみる」ほうが
イロイロ可能性が広がるよ。
人間は
全員違うけど、
1つだけ平等な事
『時間』
時間の使い方も
自分次第。

男女共同参画アンケート結果

西中学校生徒の皆さんに、次のようなアンケートを実施し、425名の方から回答を頂きました。(うち男性51%・女性49%)ご協力ありがとうございました。

	(女)	(男)
●あなたは、家事の手伝いを進んでしようとしていますか。		
・決まった手伝いがある	43%	34%
・言われたらする	52%	56%
・ほとんどしない	4%	9%
・無回答	1%	1%
●「男性は仕事、女性は家庭」といった考え方もありますがどう思いますか。		
・そう思う	9%	20%
・そう思わない	65%	46%
・よく分からない	26%	34%
●生まれ変わるとしたら男と女どちらが良いですか。		
・男の方が良い	36%	54%
・女の方が良い	29%	5%
・どちらでも良い	35%	41%

☆また今回の共生セミナーで、心に残った事として特に多かったコメントは下記の通りです。

- ①夢をあきらめない大切さ。
- ②歌(歌声)がステキだった。
- ③時間だけは、皆平等ということ。
- ④西中時代の話しをしてくれたこと。



日本女性会議2012仙台

Japan Women's Conference in SENDAI 2012

「きめる、うごく、東北から」

平成24年10月26日(金)・27日(土)、仙台国際センターで男女共同参画社会の実現を目指す第29回「日本女性会議」が開催されました。会議は、「日本の男女共同参画施策の現状と今後の課題について」内閣府男女共同参画局長佐村知子さんからの基調報告につづき、東日本大震災から1年半、被災地の女性たちがどのような困難を抱え、どのように立ち上がってきたか、支援に関わった女性が「これまでと今と」を熱く語りました。

特に心に残ったのは、被災地の女性たちを支えたのも被災した女性たちだったこと、そこに生まれたつながりには、困難を希望に変える力があつたことでした。2日目の分科会では「ジェンダーチェック」、「ハラスメントチェック」、「支援者のためのガイドライン」など、活用できるツールは実生活で役立つもので、「人権ってこういうこと!」と改めて思いました。

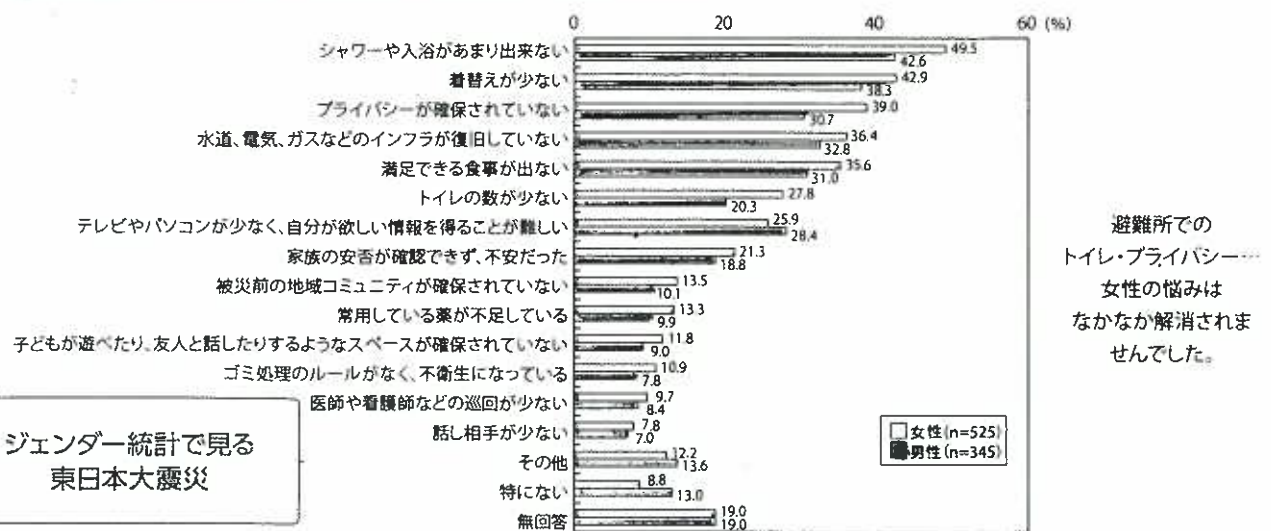
また、女性が意思決定の過程に参画して、「自ら決めて、動いて、社会を変えていこう」という強い思いが伝わってきました。

復興とは、震災前に戻ることではなく、さらに良い社会へ発展させることを今後の教訓とすること。そして、「女性たちは社会を変える力も責任も持っている」ことを社会に発信し、日本中で行動につなげる。まさに、今日がその始まりであることを2100名、一人ひとりが胸に刻んだ会議でした。

本大会の締めくくりは「女性の持つ力」と、「災害からの復興」を全国に発信するシンポジウム「きめる、うごく、東北から」です。男女共同参画の飛躍的な推進こそが、日本社会再生のカギだと強く感じました。

「震災に性別なんて関係ない」という声が震災直後から聞かれましたが…

■ 災害直後から避難所での生活について困っていること(男女別、複数回答)



【備考】1.内閣府・消防庁・気象庁共同調査「東日本大震災に関する調査」(平成23年)を基に、内閣府男女共同参画局による男女別集計。

2.調査対象は、岩手県、宮城県及び福島県の沿岸地域で県内避難をしている被災者870人(女性525人、男性345人)。調査は、仮設住宅・避難所を訪問し、面接方式で実施。

3.調査時期は、平成23年7月上旬から下旬。

次回、第30回「日本女性会議」は平成25年10月11日(金)・12日(土)に徳島県阿南市で開催されます。

「広場と道」

第21回 埼玉人権を考えるつどい 出会い・ふれあい・思いやり

第21回目を迎える「埼玉人権を考えるつどい」は、10月18日（木）、春日部市文化会館にて多くの参加により開催されました。今年の試みは「広場と道」で、春日部駅東口から春日部市文化会館の道に託されました。

春日部駅東口の近くに雨の中、埼玉12市町から集まった人と人との出会いが、ここから始まりました。

小中学校の生徒の「人権メッセージ看板」・「メッセージプランター」・「メッセージ入り行灯」が花を添えてくれました。

会場には10万人の小・中学校の児童生徒一人ひとりの人権が尊重された明るい社会になることを願ってのメッセージが掲げられていました。

届け・はばたけ・埼玉の鶴「10万羽」が各所に飾られていました。たくさんの人たちが東日本大震災からの復興を願う思いで心を

込めて折った鶴です。幸手市からは、「さくらの里」、「幸手学園」、「あやめ寮」が手作り商品を並べて参加しました。昨年と同じ「道の駅さんりく」からの、復興支援商品としてストラップ、プレスレットなどが人気を集めていました。

屋外ミニステージにおいては、雨の中人形劇等が熱演されていました。大ホールにおいては春日部市立豊春中学校混声合唱団がすばらしい歌声を披露しました。最後に参加者全員で「ふるさと」を歌い閉会しました。

次回は、平成25年10月17日（木）、幸手市で開催されます。



第32回「幸手市健康福祉まつり」 に参加して

平成24年11月3日（土）、幸手市男女共同参画推進協議会7人のメンバー全員が、ウェルス幸手で「健康福祉まつり」に参加しました。駐車場から入場口に設けられた展示コーナーにて、PRと活動報告を行いました。

その主な内容について、2項目を紹介します。

一つ目は、私たちが決して忘れることので



きない平成23年3月11日に発生した東日本大震災で多くの犠牲者が出たことです。そして、今も多くの人が避難生活をしていることです。その被災者の生活実態について、10枚のパネルを展示しました。

特に女性の視点からとらえた内容は、今後の支援の在り方について考えさせられました。また、災害はいつ発生するかわかりません。しかし、被害を減らすことはできます。そのためにも、しっかり学び行動できる力が求められているようにも感じました。

二つ目は、この一年間の私たちの活動報告です。10月12日（金）、幸手西中学校で開催された、女と男の共生セミナー。

10月18日（木）、春日部市で開催された第21回埼玉人権を考えるつどい「人権それは愛」出会い・ふれあい・思いやりに参加して、お互いの立場を尊重し、理解し合うことの大事さをあらためて学び、家庭、職場、地域の人権について考えるきっかけとなりました。

また、仙台で開催された日本女性会議の興味深い内容についての展示も多くの人目を引くことができました。

男女共同参画情報コーナー

～幸手市ファミリーサポートセンターってなーあに～
今回は、幸手市ファミリーサポートセンターを訪ね事業内容と活動状況をお聞きしました。

幸手市では平成20年6月にファミリーサポートセンターを設立し、会員募集を行い、同年8月から事業を開始しました。現在アドバイザー2名を配置して相談に対応しています。

「子育ての手助けが欲しい人」と「子育ての手助けをしたい人」が会員となり、子育てのために助け合う会員には次の3種類があります。

依頼会員

幸手市にお住まいの人または、市内に勤務する人で生後3カ月～小学6年生までのお子さんを持つ、子育ての手助けを受けたい人。

協力会員

幸手市内にお住まいで、子育ての手助けをしたい人。活動報酬として、30分350円からとなっています。

両方会員

時には子育ての手助けを受けたい人。時には子育ての手助けをしたい人。

※協力会員と両方会員は講習会に参加することが必要です。



現在、依頼会員は200名（うち男性3名）です。協力会員は53名（うち男性10名）、両方会員は25名となっており、ともに子育ての手助けを行っています。

今日の少子化、高齢化時代においては、お互いに助け合いながら子育てをする必要があります。自分に出来る事を自分のペースで手助けすることが大切、というアドバイザーの言葉に心を打たれました。子育て中のパパ・ママ達が安心して仕事や家庭の両立が出来るファミリーサポートセンターの活動が、益々重要になってくると思います。取材のご協力ありがとうございました。

「問い合わせ」 ウェルズ幸手内

TEL 0480-42-8461

時間 AM 9時～PM 5時

アドバイザーがお待ちしています。

（取材日 平成24年12月）

ときめき感動の時 ～男子厨房に入る～

それは、50年以上も音信が途絶えていた、高校時代の親友N君からの突然の電話から始まった。転勤に次ぐ転勤の間に、いつしか同窓会名簿から消えた私の住所を、彼が八方手を尽して探してくれたのである。「ふるさとの味をごちそうするから来ないか」との誘いに、まだ自然林が残る横浜市の彼の家を訪ねた。

私にとっても旧知の奥方は既に亡く、彼が自ら作る故郷の名物、鯛そうめんをメインとする料理は、割烹並みの「お品書き」まで添えた本格派。凝り性の彼らしい歓待と思い出話で、半世紀の空白を埋めるに時間はかからなかった。

今度は幸手の我が家で、と再会を約束して帰路についたが、本当に驚いたのは、彼の料理の腕前である。奥方を亡くして止むを得ずそうになったのか、元々料理が好きなカジメンなのかは聞き洩らしたが、家の中のことはすべて妻まかせでやってきた私には、到底真似できそうにない。「厨房に入らずば男子生きられず」とは、単身赴任時に、ラジオの川柳に入選した私の作だが、妻が先に逝ってもスーパーの惣菜に頼らず生きていくには、厨房にもっと親しまねば、と自戒の一日でもあった。



輝きコーナー我が家の場合

今回ご登場いただく方は、幸手市、長倉にアトリエのあるNPO法人アート体験協会の代表者・小林晃一さんと容子さんご夫婦です。

現在、宮代町の須賀中で美術を指導されている晃一さんは、昭和63年東京芸術大学美術学部大学院彫刻科を卒業の際、宮城県丸森町から産出される石を求め、その石切場で仕事をしていました。そのころ、仙台で彫金教室のアシスタントをしていた石巻市出身の「石巻を想う会」の発起人・容子さんは、彫刻家の晃一さんと結婚し、宮城県大和町にアトリエを構え現在は、夫の地元、幸手市で家族と共に暮らしています。晃一さんは、石彫作家として公園、病院、市役所などに数々のモニュメントを制作し、創造性を豊かに自分自身を暖かくみつめる事ができますと述べています。

平成12年に旅の傍ら素焼きの一種、黒焼きに出会い魅了され、その後アトリエ内に煉瓦で窯を築き彫刻で培ったフォルム(型)を活かして、黒幻焼を誕生させました。



そして、容子さんと共に造形教室を開催し、陶芸や絵手紙・アクセサリー・版画などを作るのも楽しみです。また、子供達が夏休みの時にワークショップとして石や木・粘土の素材で色々な物を作り、図工の好きな子供達が集まって楽しく学んでいます。これまで、美術館での個展や仙台市でシンポジウム、東京都・埼玉県・宮城県での受賞、モニュメントの制作等が知られ、特に、幸手市役所においては「しあわせの手」が有名です。

また、「彼女との目標は東日本大震災を機に、ふるさと石巻が復興するまで応援したいと思っています」と。さらに、「幸手にはその活動を支えて下さる仲間が沢山いますのでとても有難く、私達にとってはかけがえのない宝です」と語りました。

講演会聴講報告

平成24年7月8日(日)私たち委員は、さいたま新都心にある埼玉県男女共同参画推進センター(With Youさいたま)で開催された、男女共同参画週間講演会に参加しました。当日、さいたま市出身である町亞聖さんが「脳障害のため車いすの生活を送っていた母と過ごした10年の日々」について講演しました。

車イスで生活できるような環境づくりの大切さについて学びました。例えば、トイレ、洗面所、風呂、台所などリフォームは必要であること。また本人ができることは、自分でやるように応援すること。できないことを数えるより、できることを数えることが大切であること。また、家族だからこそ理解できる体調の変化を見落とすことのないようにすること。これらの体験からにじみでた内容は、両親への接し方が、話のはしはしから感じられ、町さんの心のやさしさが伝わってきました。

また、この講演から、介護が必要になっても地域で安心して暮らしていけることを目指すとともに、いつまでも自立した生活を送れるよう支援していくことの大切さをあらためて学ぶこともできました。

表紙の絵

幸手市が、これまで以上に性別に係わらず意欲・能力を十分に発揮できる社会をめざしてほしいと願い、市のシンボルを表現しました。

幸手市男女共同参画推進委員に なりませんか!

市では平成25年度に、女性と男性が人権を尊重しつつ、それぞれの個性と能力を発揮することができる男女共同参画社会の実現を推進していただける方を募集します。

問い合わせ 人権推進課 ☎43-1111

● ● 編 ● 集 ● 後 ● 記 ● ●

女性の社会進出度合、日本は世界135カ国中101位という、先進国らしからぬデータが公表されました(男女格差報告)。国は、こうした実状から、2020年度までに、女性管理職30%以上を達成するという目標を掲げました。

女性の力を活かさないでいる余裕は、日本にはもうないということでしょう。この「モア」もそうした方向への一助になれば、と願っています。